

図1) 北海道農政事務所 平成29年産水稲8月15日現在における水稲の作柄概況(北海道)より

(前ページより続く)

録的な猛暑が続き、生育が盛り返したと思った矢先、8月上旬の低温、低日照となった。8月下旬には気温も戻り、登熟が順調に進むと見込まれたが、9月前半の低温により登熟が遅れている。今後の生育状況の推移に注視していきたい。(札幌支店)

深刻度を増す肥料物流

重袋の手積み手下し集配に敬遠

ネット通販の飛躍的な取引量の拡大に伴う右肩上りの集配量と再配達の高さから、集配ドライバーの労働条件改善と賃上げが話題となっている。それに伴い、荷主との配達料金の値上げ交渉が開始されているのはご承知の通りだ。この動きは肥料業界にもあり、肥料の小口持込の運賃改定を求める声が相次いでいる。これは小口配送だけの話では留まっていない。最近は何の肥料メーカーも総じて「車がとれない」という嘆きが聞こえてくる。近年では当用期に引き取るケースが年々増加傾向にあり、特に2～3月の時期に肥料を配送してくれる車の手配に大変苦慮している状況となっている。また、当用期に引取りが集中する関係で工場の荷役待ちをするケースが目立ち、「手待ち時間」問題も重なり3月の肥料工場への引取りを敬遠したいと言ったドライバーの声を聞くことが多くなった。

工場の出荷体制の問題もあるがそもそも何故、肥料を運んでくれる車が取れにくくなっているのか。これはドライバーの平均所得が重労働の割には低く、全産業よりも平均労働時間が長いことが主因となっている。厚生労働省は最低限遵守すべきトラックドライバーの労働時間のルールとして「運転時間は2日平均で1日9時間以内」、「連続運転は4時間以内」、「休憩は連続で8時間以上」の徹底を告示している。肥料運送の場合、コストを抑えるために「帰り荷」と称した便を利用されることが多い。上記の労働条件となったことで特に長距離荷役は1日で9時間内の運転を超過してしまうため、帰り荷価格運賃で運んでもらえる所が極端に少なくなっている。長距離便が姿を消しつつあるのはこのことだ。肥料は最近軽量化が進み15kg袋の商品

が増えつつあるが、基本は20キロ袋。パレットを持ち込んでの輸送や工場から出荷の際はシートパレットによる積み時間の短縮化等もメーカー毎に対応は進んでいるものの、手積み、手下しの場合もまだ多くドライバーに敬遠されるケースが増えているようだ。また、パレットの規格も様々で統一化されていないためにすぐさまに統一するには困難であるように思える。レンタルパレットもパレットの再集荷の問題や紛失が多く利用側のモラルの欠如も指摘されている。また、肥料商はコメの集荷を商いとしている場合もあるのだが、コメで利用するパレットと肥料で利用するパレットの規格が異なるため簡単にはいかない。配送の場合においては積み下ろしの場所で担ぎ込みを要する配送場所も少なくない。最近ではサービスと黙認されていた部分が見合い料金を請求してくるケースも増加している。解決しなければならない問題は山積しているが、我々の業界内だけでは解決が難しい問題であると思われる。

国際農業資材 EXP02017

出展のお知らせ

来る10月11～13日に幕張メッセで開催される、国際農業資材EXP0（アグリテック）に出展致します。農業資材EXP0はアジア最大の農業資材・肥料・機械の展示商談会です。入場招待券は当社の各営業担当者までお問い合わせください。皆様のご来場をお待ち申し上げております。

期間：10月11日（水）～13日（金）

10：00～18：00（最終日は17時まで）

場所：幕張メッセ（千葉県）

詳細：<http://www.agritechjapan.jp/>

お問合せ：本店特販部 / 松本（03-5275-5513）

お彼岸が過ぎ、秋の気配が加速してきました。美味しいお米の収穫まであと少し。待ち遠しいです。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>